

谷壯愛國  
太郎民權  
演說家百詠選  
上

柳田文庫

文庫11

A1688

1

30

25

20

15

10

谷壯太郎編輯  
歌川豊宣畫

愛國  
民權  
演說家百詠選全

東京  
松林堂梓

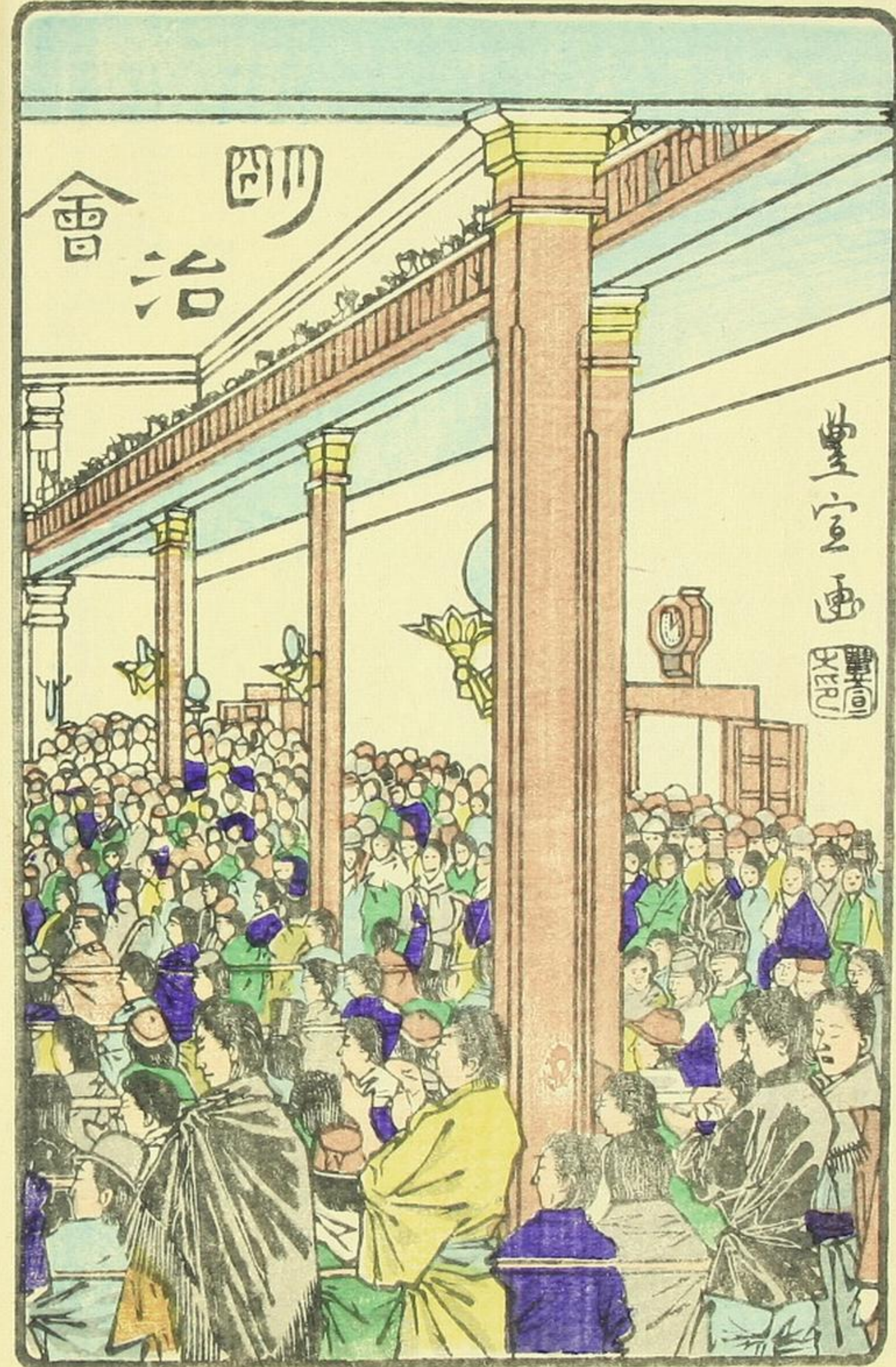
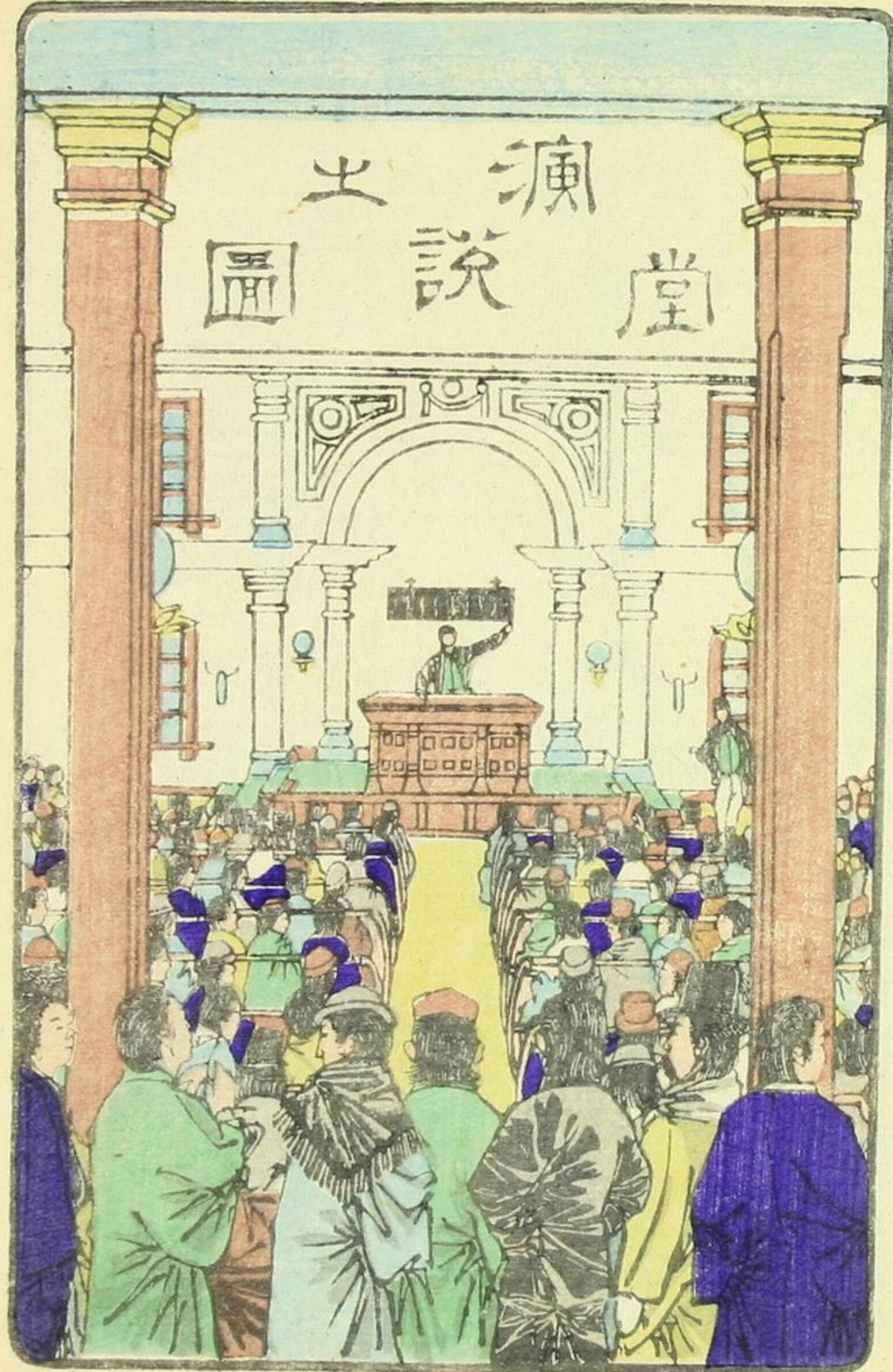
文庫11  
A1628

序

社會の開明は進歩を以て物産は繁殖を獎勵す  
るを果して文學は進むるに因るる實に然り吾邦  
近世歐米の流風を擬し演說を以て世道を益す  
る者尠ふあらざる則ち苦學の勞を待たずし  
て人智を開達し心志を憤興せしむるは美舉な  
らん今や談士乃言行と稱し以て之を鴻湖公  
示せんといふ請ふ者官其を之を袖ふせよと云爾

明治十有五年冬十月 觀月樵夫識





自由黨總理板垣退助公を明治十五年四月 日岐阜某所にて同志懇親會の  
 席に臨み演説あり衆人比喁米ヲ得ヒヤノ声滿場雷の如く祝詞答詞も終  
 り公退席の時ふ際し玄關の脇より突然一人の男頭出し公と目掛け短刀強  
 以て數ヶ所の刺と負せり夫事ありと衆人馳來り刺客と捕へり且公の負  
 傷と看護し厚く手当せり旅館に歸らる此刺客の愛知縣愛知郡田代村士族  
 相原尚聚なるものなり私怨の如くの舉動及及び一か海意の有無探知  
 一心國の爲と何と心得斯の如くの舉動及及び一か海意の有無探知  
 参議より奏上せられしに 聖上よん公の嘗て元勳の如く嘉し厚き 命あり  
 て侍從侍醫と差向けらる 勅使西四辻侍從君と以て御手許金三百圓と下  
 賜せらるんと嗚呼板垣公數ヶ所の疵と受くらむ淺くして生命無事幸福無極と  
 云ふん自由黨本部其他各所より見舞の文或ハ若干の金と寄送り全く自由  
 主義の隆盛と期するの兆と云ふる公の高名萬代不輝照るべし

演説の旨

板垣退助

神田泉文庫

板垣退助の愛知縣下土佐國高知藩の士族なり王政復古萬機一新の春詔命と蒙りて進んで参子の職と命ぜられ日夜政務に励んで急らば征韓の諸説紛々せし起り此の同氏の何やらんやんぶとあき事其有らば遂に参議の職と辞退せられて帰國をせし後思想と天下の盛衰とを立社と唱へ一の社と結び自由の道と士民の説き曉と人民の各自固有の権力たるを發見して類する民権と主張せられ風説して世の民権社會の人々を多少此氏の風彩と慕擬せし者も諸國より由るんとものり



忍峽稜威兄は備中国西原村の一大  
 農客あり幼より多才卓識の名あり  
 て博く天下文墨の士は交際あせし  
 該諸士の所長と機集し別よ方寸一  
 團の和氣と含了し民権自由の論を  
 主張し一村一郡の民とて能其理  
 由を説明し遂に近国民権議會の委  
 任あり縣會より出講し又東京へ出  
 遊して建言せし採用をうりしが  
 然ども其心志挫くべし益々愛國  
 者流の部分とありて千方万苦を  
 せし風説ありしが惜哉此人望と有  
 此才学と有して轉じて工農此二  
 業と與さしむれば信然ある富強の  
 國と為らるらん但空しく談論口議  
 時間と浪費せしとん



後藤象次郎は土州愛媛縣の士族  
 愛國の精神を以て富國の學を長  
 小大の民権と主張し人民は有益な  
 る一大事業と起きんとて常々思考  
 せし折九州地方に於て坑坑と得て  
 之より着手せし其近傍の人民大  
 いに坑事に従事せし其悦び一  
 方ありし其他諸般の事共と開発し  
 て以て士民は先づ自主自由の持  
 権と人々を得せしめん事のみに  
 力周施して千坐万折の勞と嫌ひを  
 勉強せし人あり初め王政維新の  
 春王命と蒙り参事の職を命ぜられ  
 工部卿又左院の議長と命ぜられ  
 遂に辭去して民権と張の事と力と  
 尽くせしと聞ゆ



由利公正ハ北陸道越前の国田福井藩士より天稟の俊才あり讀書と好み経済と長ト有益ある国家事業と與さんと謀り士民ノ商業の有益と説論一且民権と張らざるを商法の隆盛ある能はばと思せしより愛国の端緒を開き士民と煽動を成せ鐵山と開坑一々大ひ利益と占め或は製鐵場と設立して失敗せしと録ども人々として世ノ斯の如き公益の有りと謂ふ示し且人心の小利小區をばる事と開きせしめ又能く商工と勸め自主特立の志氣を振ふしるに至る故に大商法工事を爲んと欲する者ハ此人の説によて益と得る者多しと聞く



由利公正

新しき  
しき  
うらなれ花  
空の夢をまき  
ふやまん書  
東よん

成島柳止ハ東京の人として旧徳川氏の奥儒者侯卿先生の子あり知よく文学に勉強して人ト秀でたり風骨俊才博識の名あり長ト洋書と繙閱一又欧米諸国ノ護遊し博く各國の風景と探り風土人情の実況と索知して帰朝の後朝野新聞社の乞ふ依て該社の記者とあれり其平常説く所の説論皆士民トて自主の権自由の理ありと説示し且人たる者ト特立の思想と固有せし由一這の思念の奮發せしむるト志氣筆端ト溢る頗る簡單なる論述多し江湖の民権者流の徒ハ競ふて氏の論説咳唾とちや者も亦妙ありと云



成島

梅柳  
前詩  
一  
囊  
半神  
羽鮮  
千鶴  
日三  
漫上  
者花

来注  
松

田島象二其先信州の出身なり其  
 の東京の産あり知れり和漢の書と  
 讀み時撰夷の説紛々諸著し起り天  
 下騷然たり一氏ハ奮然志氣と振  
 ひ国事一尽力周旋一其為せ所る其  
 謂其行止所る皆撰夷の意と合書  
 せざるをあり或時村田文雄の聘し  
 應下りて圖々珍聞の編者となりし  
 去て妙々難組ある者て編成して世  
 一公ふ一又同樂相談ある者も著し  
 たり一が何ともし其文其落たる奇事  
 珍説あり看者觀て以て氏の人とな  
 りやと一目瞭然たりん却て氏の  
 深意ハ此よりありんを廣く士民と  
 開明の域に進すべしとせし凡て  
 意文外溢るありと云



田島象二

東公山麓碎珍書  
 裁女紅粧媚

新  
 体さるの  
 風流信譽

故人

東山

福地源一郎肥前の国長崎の産  
 若しり学文一志一博く和漢  
 の事情一通ト且つ洋学一入り和蘭  
 の語一通ト能く外人と談話と  
 為し頗る博識多才一併説流る  
 一が如し其民権一就いて種々の論  
 説たり能く人として自主自由の権  
 理と知し一又特立不羈の心志と  
 振作せしや或はて演説と設け諸  
 人ふ百般の理由と説明に初め官途  
 一就き一も幾程あり辞退し一後ち  
 新聞の一社と設け普く世界の奇事  
 と撰ひ珍説と述べて江湖の看官一擲  
 一其一開化文明の世一遊び現世永  
 遠の快樂と為んとせし天賦の才子  
 ありと



福地源一郎

源流の源法烟

舟

お

一碎夢

同人ふ見

公路島子

帰江杜

五代友厚も鹿兒島縣の士族なり幼  
 かり俊才卓識の名なりて漢字志  
 又洋学に涉り遂に海外に遊びイ  
 キリス國の「ロンドン」ある都府へ至  
 り該地の景況を觀察して大に感  
 發せし事共有りて歸朝の後暫し官  
 職に進み自ら辭退して吾朝の  
 商法を一變改革して人民は日進姑  
 息の商風を更改して文明開化の民  
 と并んで商戦を為さしめ富國の基  
 礎を立て自主自由の権理を持せ独  
 立不羈の大日本國と為んと欲せり  
 企念思想を起して自ら諸人に先魁  
 して大商法を管み日夜東西奔走の  
 辛勞をせし一大豪傑の人あり此人  
 の後世必陶米倚頼の富と為んとす



五代友厚

我が家

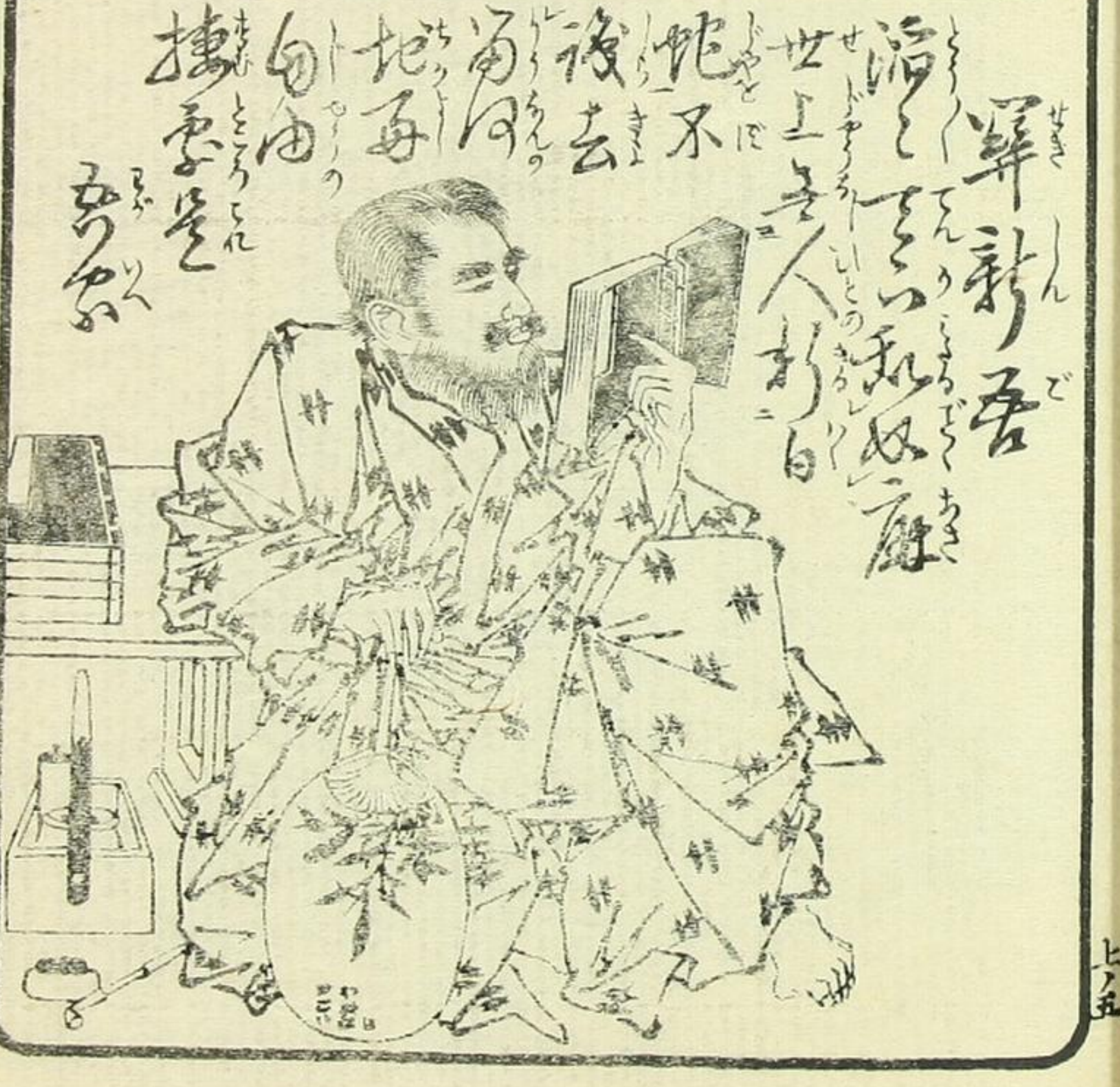
の

武

あり

は

閣新吾の備前の国岡山の士族なり  
 幼時ハ洋太郎と稱して該地の學校  
 に入り廣く古今の歴史を讀み致し  
 忘らば年壯なるより及んで洋学を研  
 究し夙に其學を長しり曾て東京  
 遊び兵論新聞社に入り其論  
 説激烈にして士民を鼓動し人身固  
 有の権理を説明し以て民権を主  
 張し自由特立の理由を勸奨して遂  
 に民権論を陳述せし其論抗擧して  
 り兼て定まりし國典ある新聞條例  
 の十三條に抵觸せし咎より一年  
 の處分を受けし人あり此氏の所長  
 とはるる文章より其文章は人の  
 意表より出ること共多うりし秀才の  
 人ありと云ふ



新吾

世

不

後

地

由

撫

を

は



吟香を姓と岸田と稱して常は和漢の書と講し横濱東京の間を道遠せし折は明治開化の世よりありて民を益々奮躍の思ひと為て自主自由の民とるれば今や此天下の士民共々文明開化の世に進む旧習弊風を一洗改革致さんと焦慮苦心せし内彼西洋に流行せる新聞紙なる物と思ひ付て此業を起し廣く江湖の士民とて都鄙の別を空るが宇内の事実光景を知らしめたり其の開化進歩の助け又人々として愛國の情を抱しめたり特は商法の術を長し自ら實業の業と營み人の眼疾を隆りしと見て一種の奇効ある点眼水と創造せし人あり

演説百首

片岡健吉ハ愛媛縣下土佐の国高知の士族あり此氏愛國の精神と振ひ國會の事務を自ら責任し普く天下の有志に謀り書と元老院へ建りしも其心志と達し能くば遂ふやんかゝる事ども何れも解けて浪華の津に至り江湖の有志は會盟して大ひは民権自主の高論を立て士民と煽動し該個條の如きは欲く其事と尽せしと謂ふべしと鎮西諸民を皆ふ氏の説論は多しと風説あり初ら板垣退助と共に討幕論と與し東奔して諸士と誘導し西走して諸侯に遊説もあせり多すの偉才子ありとを世の人々之と賞はと開き

岸田吟香



仲  
 たる業  
 志不  
 のき  
 とは

片岡健吉

説論滔々

喻士民

謂

釋



可也

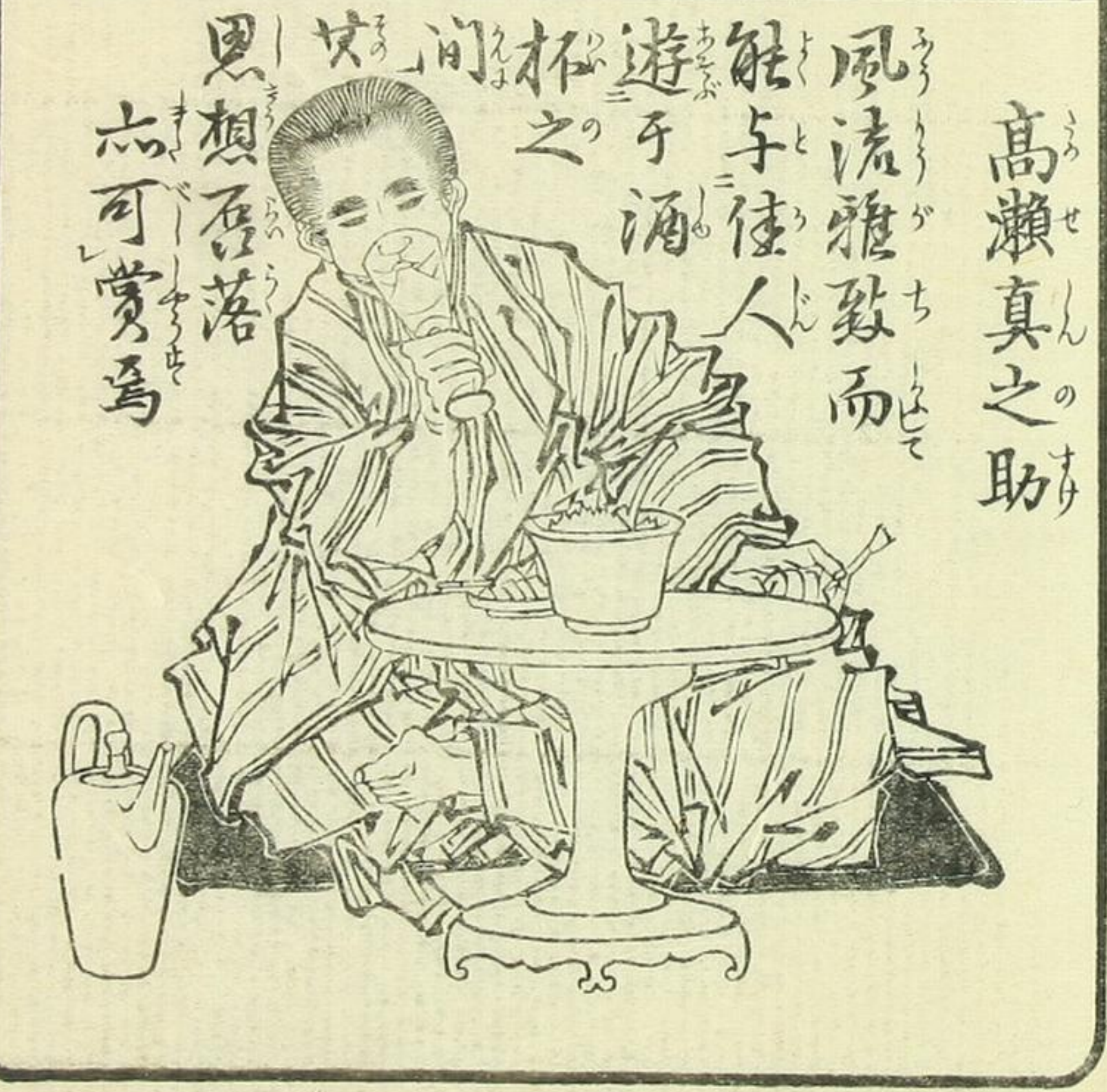
栗本鋤雲と舊幕府の医瑞軒の養子  
 ありて父の業を継ぐは俗吏とあり  
 人あり曾て佛国に遊びて開年  
 而して該地の景況及び政風等と詳  
 明を得て歸朝せし徳氏も追々  
 衰世よ及びと懐せり然し政権ハ  
 王家に帰せし事共と悦び自後これ  
 やすし文明の域に進むあり士民ハ  
 開化の人とありんて必せりと翁も  
 亦奮然して益々此開化と助けんと  
 して報知新聞の記者となり江湖の  
 人よ自主の理と説明し奇事珍説の  
 在ると筆下は網羅して能く看官と  
 して厭棄せざりしむるに至り其勢  
 價最も世上よ高き文才高智の人を  
 ひと云ふ



栗本鋤雲

縁高非己  
 力粘壁固  
 其分不如  
 蕉箋上悠々  
 寫篆文

高瀬真之助と淡水縣常洲水戸の産  
 あり性豪壯不羈し直言面折して  
 世不容きらざる風彩られども其心  
 志感一々を毫も人よ屈せざる氣味  
 況其た可憐の事あり氏も諸方の新  
 聞記者となりしも何れも抗論争説の  
 絶する人あり久し其事は耐らざる  
 ありて該者と出沒せしが近頃ハ  
 官城縣下に至り東北新報と唱へし  
 一社と設立して該社長となり人氏  
 固有の自主自由の権理を事とし主  
 張し博士士民を開示せしめく縣下  
 の人氏是が為は彼の頑固ある旧興  
 川の弊風と改良して曠乎として文  
 明開化の域に進む人ども騰て數  
 めんくばと聞たり



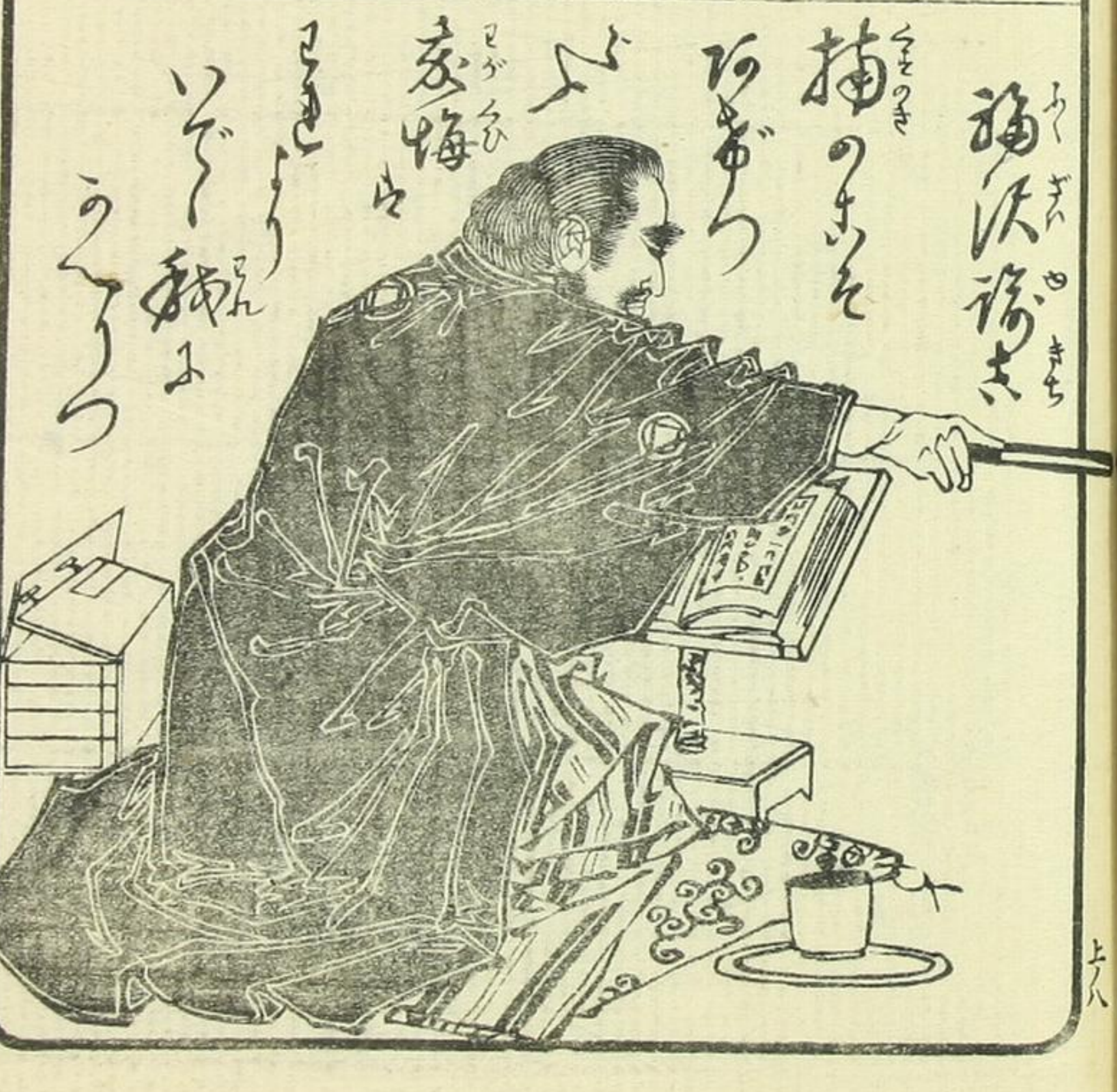
高瀬真之助

風流雅致而  
 能与往人  
 遊于酒  
 杯之間  
 思想磊落  
 亦可賞焉

沼間守一を旧高梨慎次郎と稱して  
沼間の姓と継者あり氏も旧幕府の  
の臣として維新の前後を大いに補  
幕の謀と主張し屢々官軍を抗抵せ  
るも時運の致す所を諍方なく遂に  
敗北の人となり然り而して王政維  
新の文明世界を更生してこれ  
開化の民となり共々幸福安全の地  
に至らんと欲して自主の理ある民  
権論を主張し士民は早に方向を識  
しめんやせし為ち嚶鳴社ある者と  
結んで演説討論の會を開き又東京  
横濱毎日新聞社長とありて民有の  
権理を説明し読者として夙に旧風  
頑意と鮮き此政の春風を遊詠させ  
んと志すや一人と風聞せり



福澤諭吉を豊後国中津の人として  
幼より文学を志し長むるに及んで  
西洋の学に入り普く経済の書と研  
究し長し理財の道に富むる博く天  
下の生徒を集て洋学を教授し富国  
の一端を勸導し自己の著書頗る多  
し中んづ其文明論の如きは至り  
て天下の人々を以て自主独立の  
思想を奮興せしむるに至り其民  
権を人民併持せしむるの端緒と啓  
開し併せて職業の方向目的を指示  
し始めて演説會の講場と設け諸人  
は無料にて之を聴くや文明開化  
の域に進歩せん事とのみ講説せし  
るは遂に演説會ありの天下は  
大いに開けしあり



丸山作樂ハ肥前の国の島原にて所  
 の産一々性質人よ異あり常人の  
 容らざる風想あり読書と好む博  
 く吾々秋津洲の古語を研究し  
 て世人に益はる為め一種の大倭  
 言葉と設けたり或る時国家の事  
 付て嫌疑を蒙り長く幽屏の人とな  
 りしも其事暗ていつり世に出ら  
 れて大に明治日報と唱へ新聞  
 社と設け博く世界の説と集め  
 民権者流と称せし人并に愛国者  
 と唱へ人杯の論説と攻撃せんと  
 たりて所びとを而して明治の政  
 補のらん素志と思ひあせし其一家  
 の説論最とも多しと



田本武雄と三重縣下勢州東名の産  
 士あり曰く中村武夫と称して公事  
 一奔走せし頭を尽力周旋の客あり  
 しが曾て伏見の一敗一愕然落膽し  
 て却て避世の思想起りし止む能  
 ばして又紅塵世間の花月と觀承せ  
 んと肉欲の長せし遂に東京へ遊  
 び吟驅を又夜の曙新聞社にいおね  
 彼の旧塗の夢と醒して今を開化の  
 民とあり自主自由の理と講し文明  
 世海に游泳して愛国民権と説明し  
 江湖の人民着官とて共ニ幸福と  
 仰ぎ安全の樂地に至らんと欲  
 せし其思想何も紙上は洋々乎とし  
 て溢流せり嗚呼此俊才偉懷の人哉  
 士民の眠と醒しひと謂可し



中村正直才敬字と号し徳川家の臣  
 現今静岡縣の士族なり其性  
 豪敢能く久しき忍耐し平素質朴  
 を守り華美と好まず和漢政米佛の  
 学に通じ生徒と集り同人社と唱ふ  
 る学社と設立し能く學生と教諭せ  
 り著書も亦多し其西国立志編の如  
 きに至りては天下の士民之と讀む  
 者少く此書の如きは能く人志と  
 奮興せしむる自主自由と持立有  
 るの心氣の振起せしむる好着手の  
 貴重品と謂ふべき美筆然る氏の  
 人と成りし亦見るに常し謂ふ人  
 民と自己権力を張らざれば人事と  
 尽せしと謂ふべしと云ふ  
 嘯呼



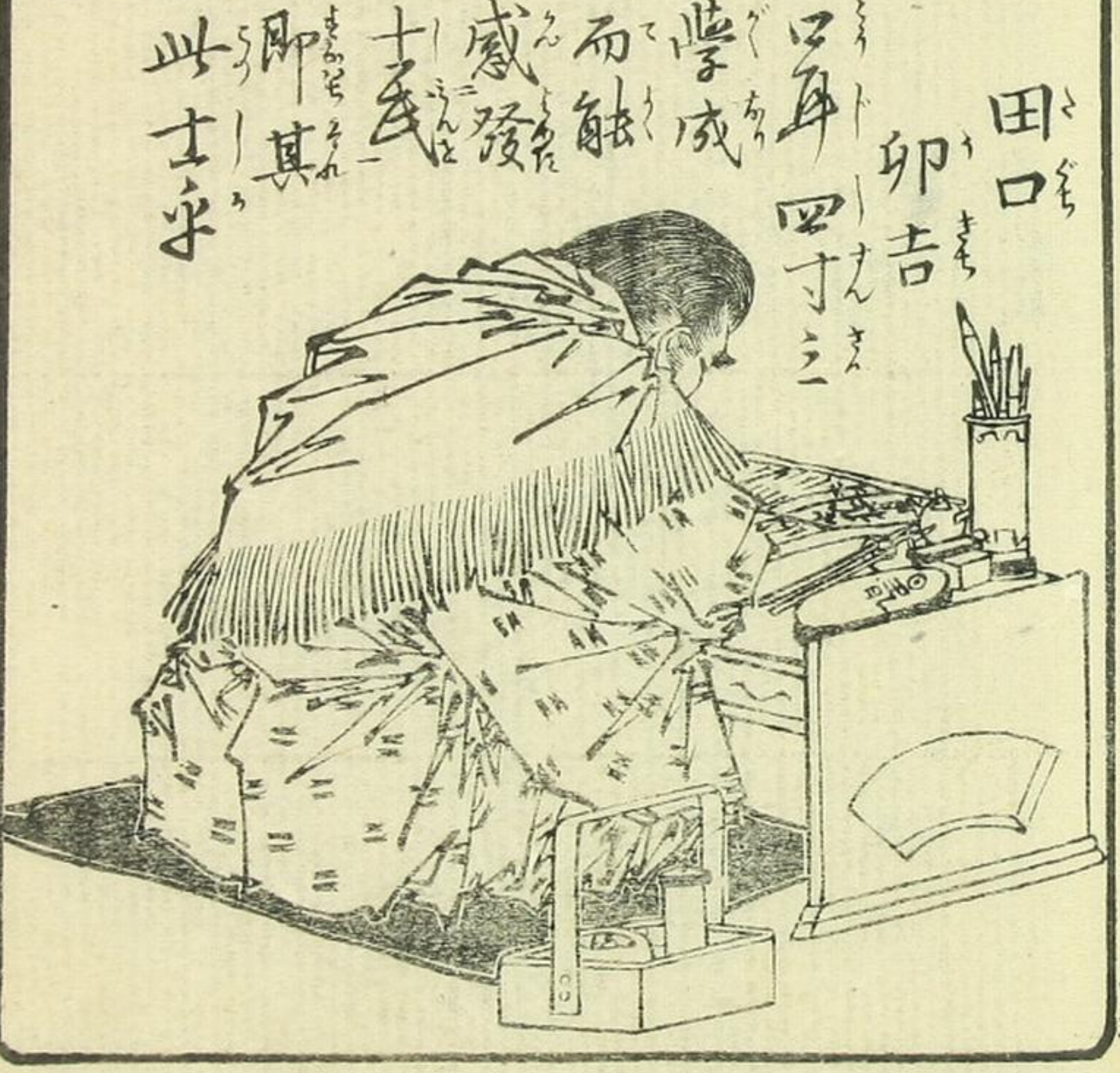
海内果ては中村射水郡中老田村の  
 農夫あり幼より農を事とせし好ん  
 だ讀書を嗜み手記書を捨ざる  
 程の勉強家にして與村マを書狂  
 と呼ぶに至りては始めより師に業を  
 授けらば獨學南窓の書生と稱せら  
 るも其詩其文の作述妙を得たり  
 曾て謂ふ師に授かるの學業は却て  
 知識を束縛せしむる實に氏の言ハ  
 大ひり然りと云ふ時に日報社の長福  
 地氏の聘に應じて該社の記者部分  
 に配列せらるる或時石川縣會議員  
 小撰率せしめ其托を同く辭せ  
 り而して常に民権愛國社流の士民  
 小能く交際を為せし人ありと云  
 聞たり



荒川定英も藩屏張の国の藩士あり  
 天賦の質温良厚和や能く人を  
 愛し人を惡まば平居致々として  
 其為之んと欲する事果さる所不  
 耐忍の氣象挫かず百事に勉勉せ  
 り明治十一年の頃各州に於て民  
 権の説論起しに依て氏も奮然  
 裡の士民と謀り愛憎交親と唱へ  
 一社を設立して縣下の有志期せ  
 して會同する者幾百人あ及びり而  
 して其説く所の論皆を勤王愛國の  
 趣旨より氏も初め維新の前後國事  
 に周旋盡力して頗る有功の士あり  
 と世人皆其功勞を讚歎せざる  
 事あり聞く



田口卯吉は東京の人なり稟賦守節  
 勤儉の人なり理財の學に長し身  
 自ら經濟の局に容れて博く士民に  
 經濟の方法を説明し善長なる經濟  
 書を著述して日本經濟の事物を細  
 論明言せり更は一社を設立して以  
 て東京經濟雜誌社と稱し毎月理財  
 の講説を記載して江湖の人目を開  
 き國家の益を為すあり氏の志は  
 厚く國を愛し人を愛し難難あり  
 世上の風波を救ふんと欲し又自主  
 特立あり民権を士民に充分に得せ  
 しめんとす素志該雜誌の紙上に  
 洋々たり實に其人の志を此處に  
 り世人の賞歎も亦宜あらん  
 やと筆を投じて感歎せり



松澤求策、信州安曇郡東穂高村の産あり、幼より豪邁多才の名あり、好んで歴史を讀み、博く百家の書を誦し、該家と豪傑と、其業を好む、常居讀書、泥々蠹魚の如し、父舊業を委せ、則産を破りて家と為さん、但四方に周遊し、民権愛国の議を擴張し、廣く天下の有志に交際し、曾て長野縣下松本ある所に於て、松本新聞の記者となり、頻りに愛国の志を以て、自主自由の民権の理由を説論せり、又該地有志と謀り、社を設立し、愛国社と稱す、政黨會社を創造せり、抑、頗る民権の振興の爲に、東馳西走の勞を厭むらんし、人と聞けり

演説百首

南喜山景雄、東京の産、舊神田大神の神官あり、王政復古維新の變革にあつて、其職を辭去、東京日報社の編輯人とあり、折該社を大坂に派支、谷社せし、かの人少、由つて氏を奔つて大坂に至り、編輯人とありたり、而つて斯の如き開化を進めし士、民も更に文明の域に進歩せんと欲し、其説了せり、丹の言論一として、開明勸奨の情意、絶つて専ら此に從事せり、其筆を抱り、文を作者の妙筆りて、實に神出鬼没の妙處得し、人あり、氏も曾て文部省お身を、暫時奉職せり、別に思想の有る、何つて程よく辭退せり、人ありと聞く



松澤求策、  
此は其の狂人、  
海軍大臣

義理、  
一任他人、  
生亦運者



南喜山景雄、  
二百〇〇名、  
中絶、  
修仲、  
風、  
修仲、  
あか

夫、非常の士に、必ず非常の行為あり、  
 落落々の士に、儼然たり、大行の  
 もの、細勤を願はせ、して、些少の  
 勲理に、関せ、と、古人の、金言あり、  
 氏に、決して、斯の、如き人、む、非ざる  
 も、多少、同異あり、も、非ざる、し、人  
 り、曾て、酒田縣令の、事を、華し、二月  
 の、禁獄に、過ひ、又、美宅、家財を、一朝の  
 濃烟に、委、烏有に、帰、喜、意、氣、淡  
 然、あり、て、毫も、腦際、入、ま、さ、り、  
 實、お、區々、る、事、理、を、關係、せ、ざる、の  
 大人、と、謂、ふ、も、敢、て、過、賞、と、せ、ざる、  
 多、り、氏、産、する、所、の、豊、後、國、佐、伯  
 の、人、り、て、大、分、縣、の、士、族、あり、本、姓  
 林、氏、と、唱、へ、り、現、今、藤、田、茂、吉、と  
 稱、し、報、知、新聞、の、主、幹、なり



藤田茂吉  
 喜之滿即  
 相而  
 屋徳  
 志起  
 花途

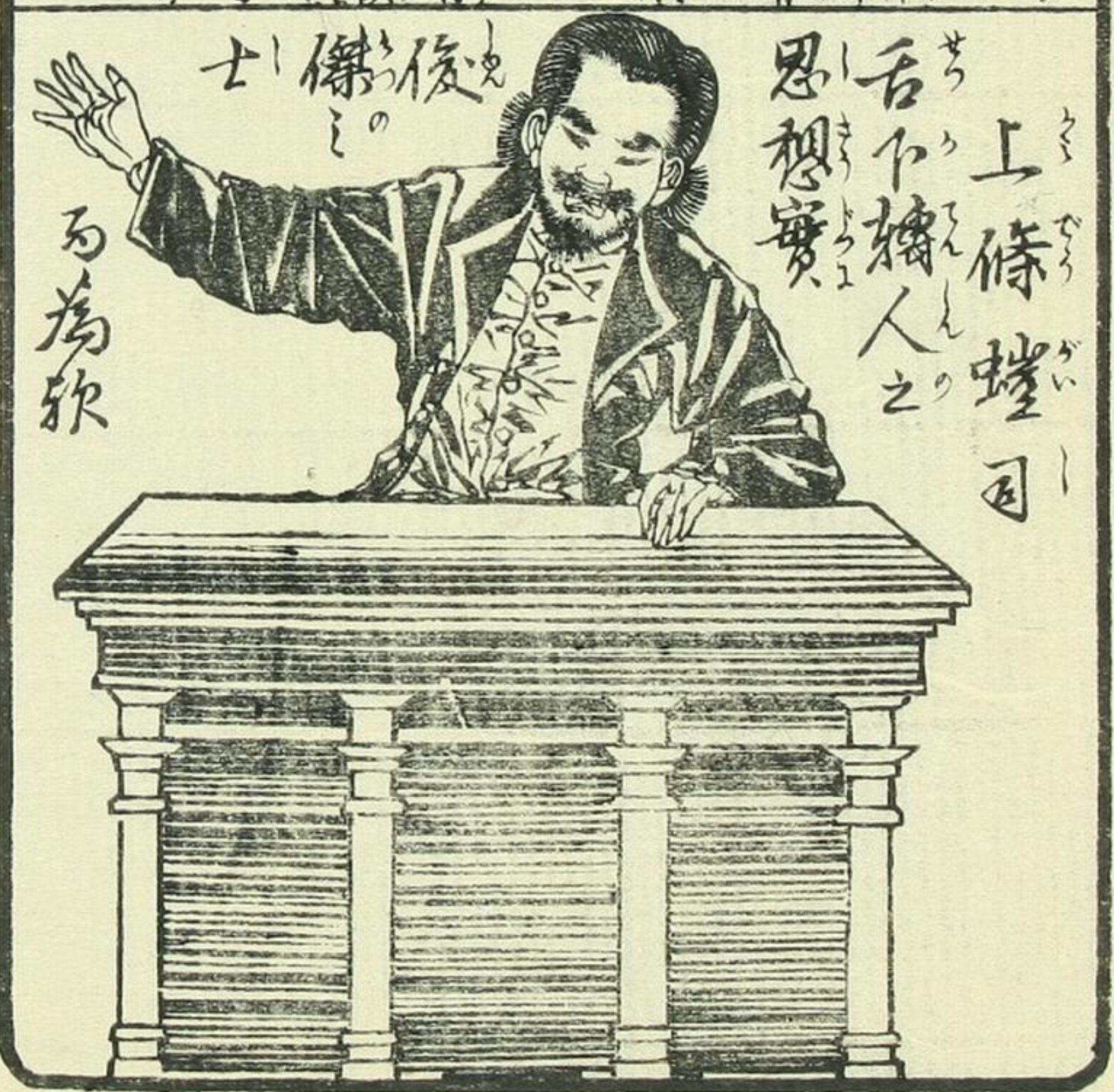
未廣重恭、伊勢の国守和島の  
 多、り、稟、性、管、直、取、り、能、く、盡  
 心、耐、へ、て、勤、勉、著、實、の、人、あり、切、り、  
 好、む、て、學、書、を、讀、み、博、く、經、史、百、家、の、書  
 を、摩、渉、し、且、つ、詩、文、を、能、く、廣、く、天  
 下、の、士、に、交、り、厚、く、朋、友、に、信、義、を、呈  
 じ、能、く、世、務、を、關、理、さ、る、り、維、新、の  
 際、より、意、を、文、壇、に、寄、せ、て、江、湖、の、人  
 士、を、以、て、文、明、開、化、の、域、中、獎、め、り、め  
 ん、と、欲、せ、り、より、官、途、を、辞、し、て、朝、野  
 新聞、の、局、長、と、り、大、に、民、權、自、由  
 の、理、を、説、明、せ、り、讀、者、為、め、に、思想、を  
 轉、換、さ、る、も、至、り、氏、と、歐、米、の、學、事  
 中、之、り、さ、る、も、曾、て、禁、獄、の、時、間  
 に、同、獄、の、士、より、口、授、せ、ら、る、も、遂、に  
 洋、書、を、讀、み、至、り、と、聞、く



未廣重恭  
 性  
 加  
 鴨  
 本  
 藤



氣運人情の變遷を多くの人為に出る  
 者にして、豈に天為と謂ふを得んや  
 茲に信濃の國策を撰言せんわ該  
 地の四面海水の見ゆる深山大澤  
 荒野の土地ありて所産の人物も亦  
 多少の頑固野蠻の人ありしか近  
 頃開化の風味を得たり頗る蠻的  
 の鈍習を除き、此々文明の地位に  
 進歩せんと思想を起せし士民、往々  
 産出せり。小至りり是と特に二三有  
 志の士在る有りて然るるらん、該  
 松澤氏と此上條蟻司氏より氏と本  
 藤本の姓あり、此此上條氏と  
 冒せり人なり、柴山と号し信濃の  
 国東筑摩郡全井村の産なりと聞



前田健次郎、舊幕府の臣、前田夏隆  
 翁の男にして幼より多才博識の名  
 を得、人あり辰の頃王政復古の  
 時に際して慨然思ふ所ありて家書  
 數年卷を一時に賣りして進んで商  
 法を習、後繪入新聞の社長となり  
 開化の實況を述べて文明の妙地に入  
 らんを欲して筆を文章及び其説  
 示する所の奇珍談論説を主張する  
 も皆、江湖の人志を以てつら、か  
 り、春風の思想を起さめ、文  
 物風致に氣を依り、切齒把腕の  
 頑的上民を、却て月吟、花に  
 酔の情味を抱く、ひるも氏の自筆  
 小非、地をりて、あき事ありらん  
 くと風説、人あり



中野梧一は舊徳川氏の臣馬喰町の郡代の小吏齋藤嘉兵衛の子ありて幼名を達吉と稱す維新前後佐幕の説を唱へて大に士氣を鼓動せしむ遂に五枝郭の一敗せしより後降参りて護送せらるるに東京に上り暫時囚獄の客とありし程あり許を得て召されて山口縣の令を拜命して任を尽せし後高志の議に感ずる事ありて官を辞して浪華津に至り藤田の伎と議して大に商業を営み且つ西南の事起りし際に當り頗る周旋尽力せしが其後嫌疑ありて捕はられし程あり放免となり帰坂にて朝鮮國へ高志を設置せし聞たり



中野の梧一

進而為官  
途之盛選  
而為商家  
妙焉

慈仁に厚き者武烈の勇氣盛んを常の士ありて未だ全くとせざるを愛に愛媛縣下土佐の国高知の士族島地正存氏も進んで過激の勇取あり退いて博愛慈仁の和氣あり實に文武兼備の士と謂ふを得往時幕府專政にて上皇威を衰え下庶民を壓する時に際して勤王攘夷の説起りしお氏も身を國家の危急に致し東馳西走して遂に志を達し勤王の教戦を経て復古維新の天に至らるる又退いて國を謀り博く庶民を愛育し民権自由の説を論示し維く愛國の情を振出しむ云ふ



島地正存

東地而志  
送為之  
志之  
慈水

高島嘉右衛門も舊江戸の産物として  
天性豪壯にして頗る義侠の人あり  
世々商賈ありて亦商を以て名を  
海内外に揚げり人あり曾て横濱開  
港の際に當り頗る洋客の建築を  
請負し巨万の利を得且つ神奈川  
駅あり横濱へ達する間の滄海を理  
め立てて鐵道の為りゆに遂に其地  
を名付りて高島町とす又學校を  
設立して廣く天下の生徒を集めて  
以て開明の道を講ずり此氏為り所  
の事業に於て凡商の意表に出る事  
のみならず而天下の商賈をして能  
く奮習の風を去り開化貿易の商思  
を興せしむ一大豪商の膽腸あり実  
に開明の商家と稱し可き人あり



長沼慈太郎も奥州舊南部の藩士あり  
東京へ來り始め武を學び後漸  
く文學に志す頻りに苦學せり人  
あり其人たるを常に小節に拘り  
けりて兵々落落たる書生の風彩あり  
氏ハ曾て官途に進み又別は所思  
ありて退き夫よりして天下人仕お  
自主の理を説き民権の事實を陳述  
せん為め扶桑新誌の事に從ひ諸般  
奇説新論を吐露して天下の士民  
を驚かす花月の取りを覺せしむる  
に至る實に奇説の男子と謂つべき  
人あり此氏性曾青樓少年の愉快者  
流して身に一斤の貯蓄を好まざ  
りし氣象にして遊岩むル氏の嗜む  
所ありと聞く



山田亨次も上野の国安中駅の産にして文次郎と稱す少くも讀書を好み詩文に長ぜり其入常は慷慨真摯の思想有りて大いに其心を開かんといひ且つ廣く九州中国其他処々の名山奇勝を登渉して從て其到處の高士騷客に對偶して天下の形勢を論議し又詩文の贈答あり後ち東京に還り學農社の社津田氏の聘に應じて農業雜誌編輯の事務に關係して能く天下の農夫村婆をして種植の方法及び動物の蓄育等に至る迄悉く説明開示して古の頑夫俗農をして始めて文明開化の新民とせん思惟を振るといひるに至りし是氏力ありと云ふ人あり



夫と商ふる者ハ政事學科の一部令カレて經國事業の最緊なる者たるを吾が古への府儒碩士の者流之を卑賤の業と爲し商估と以て奴隷視するに至りて弊毒今尚存せり然り而して方今斷乎此の英雄の士に進んで商を爲す退ひて官途に走りんと唱ふる者も至り西村勝三氏の若流魁とあつて文明開化の大商法を開き天下の士民をして漸く商に思想を轉せしむるに至るに實に英雄と稱するも敢て不當の說ららば氏ハ舊下総の国佐倉藩の士とて舉藩の士此人を信想の士と呼ぶも亦宜らばやと聞く



辻純一も東京の産にせしめて世々商賈の業を承せし人あり幼字を市太郎と稱して當時神童の名聲あり其性俊才穎悟ゆへて兒童の時より父新茂兒童の戲を為さば長じて父新茂業を継ぎ大橋の姓なり明治の頃辻氏の後見となり該親戚の依頼ゆへ止むを得ざる所より辻又四郎の世を相續し大府下豪商の交際を廣く商家の信用を得て為す所行ふ所終て篤実の一片より出て最三井氏と深く信容を得て横濱港在留の外々貿易々何れも失取せしむるより由り是れ開化と助くる商家の一部と謂ふも不當なりあり



佐々木惺軒も廣島縣の士族にして舊文藝の國廣島の藩士あり性貞落俗剛且つ潑敏あり少年の頃より好んで漢書を讀み廣く天下の士と交り又詩文又書と能くせり維新の前夕京師に於いて藩族の内命と蒙り周旋家とありて諸藩有名の士と交り共々勤王の説を唱へて公武兩部の尽力奔走せり明治六年頃ら工部省の出仕となりしも故郷より辭職して廣島新聞社の編輯長となり頻りに自由の理民権の説を主張して士民を文明開化の域に進ましめんみとのみと志し大ひ不愧世の心志と振らしむるの奇才となりて中國の人の話を聞き



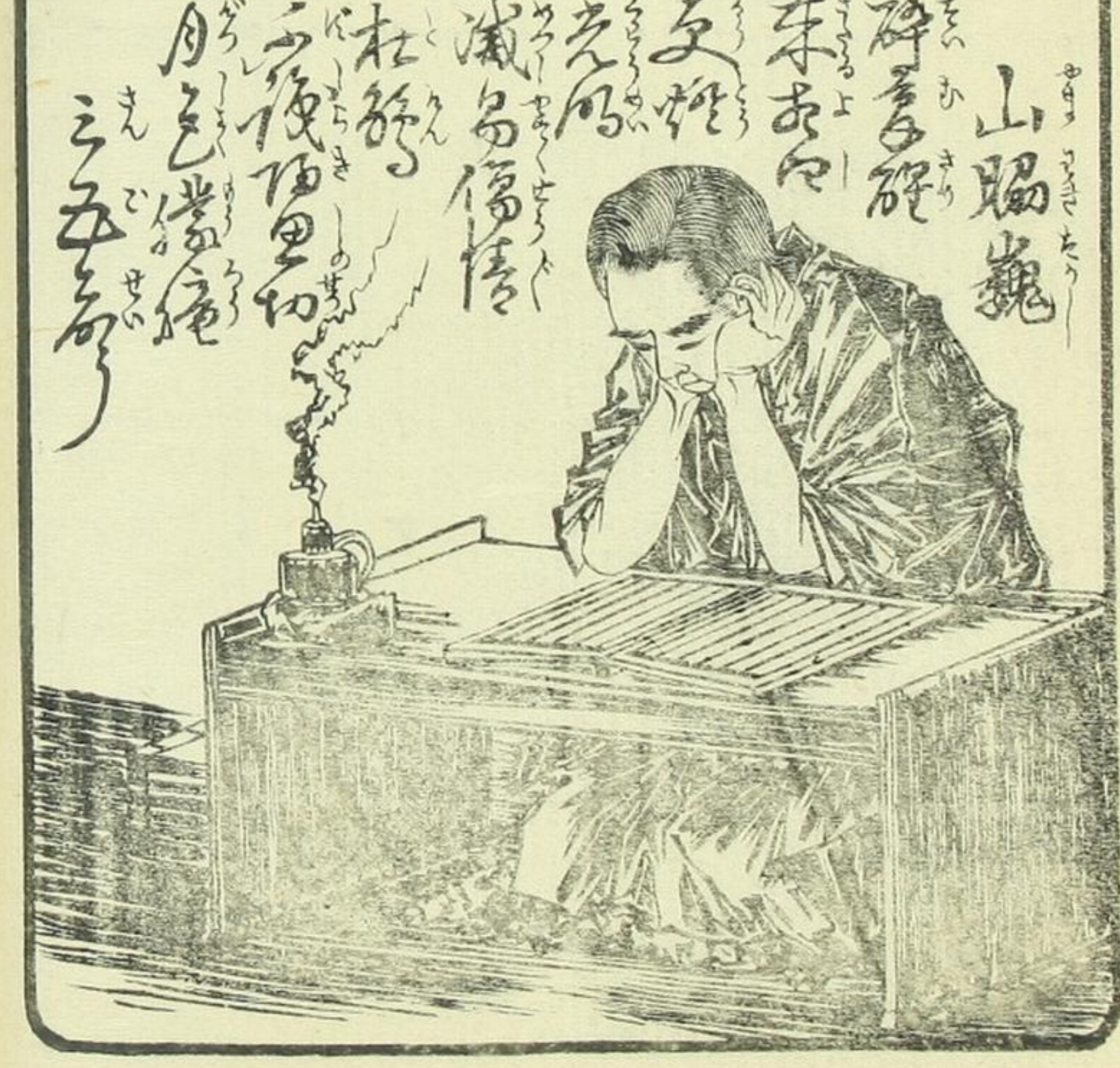
岩井弥太郎を愛媛縣下土州高知の  
 産あり人と云うや穎才卓識おして  
 能諸民を愛育し區々たる一小事  
 關係せし廣く世界の公益を欲し幾  
 分吾朝開化を助けんと志せし  
 希有の思念ありし人あり曾て浪華  
 津は逍遙し十洋風の飛脚船を見  
 大に感發せしらも掛る便利なる事業  
 大に感發せしらも掛る便利なる事業  
 商法を開發して最自由と助けし  
 事ありんと遂に兩三艘の蒸氣船と  
 設け以て神戸港より横濱港の間を  
 往來せし何しか數拾艘の汽船と  
 買得て三菱商社なる大社と設立し  
 て方今も海外へも運送往來致せし  
 程の一大會社と爲して幾千の士民  
 此陰に生計と爲せしと云り



堀龍太を駿河の國の産にして天性  
 豪壯なる氣質あり幼より文武の道  
 志ざりて常々學問を心思しよせ  
 讀書の間暇とトして武術を講せし  
 不當時王政維新萬機改政の時際  
 して氏の平生學ぶ所の術を以て  
 速か小功と奏せんとて忽ち勤王の  
 大義を肩擔して家と脱し王事小  
 勤めし後海軍省へ奉仕して少尉と  
 ありしも故はつて退職して福澤諭  
 吉の言小従ふて府下小演説を催し  
 處々の寄せ席小出張して講釋師  
 の弊風頑習を一洗せし人ありしが  
 而後又海軍省へ再勤せられしとか  
 聞たり氏武を好むの人ふれば軍  
 官へ再勤も宜ふるあらん

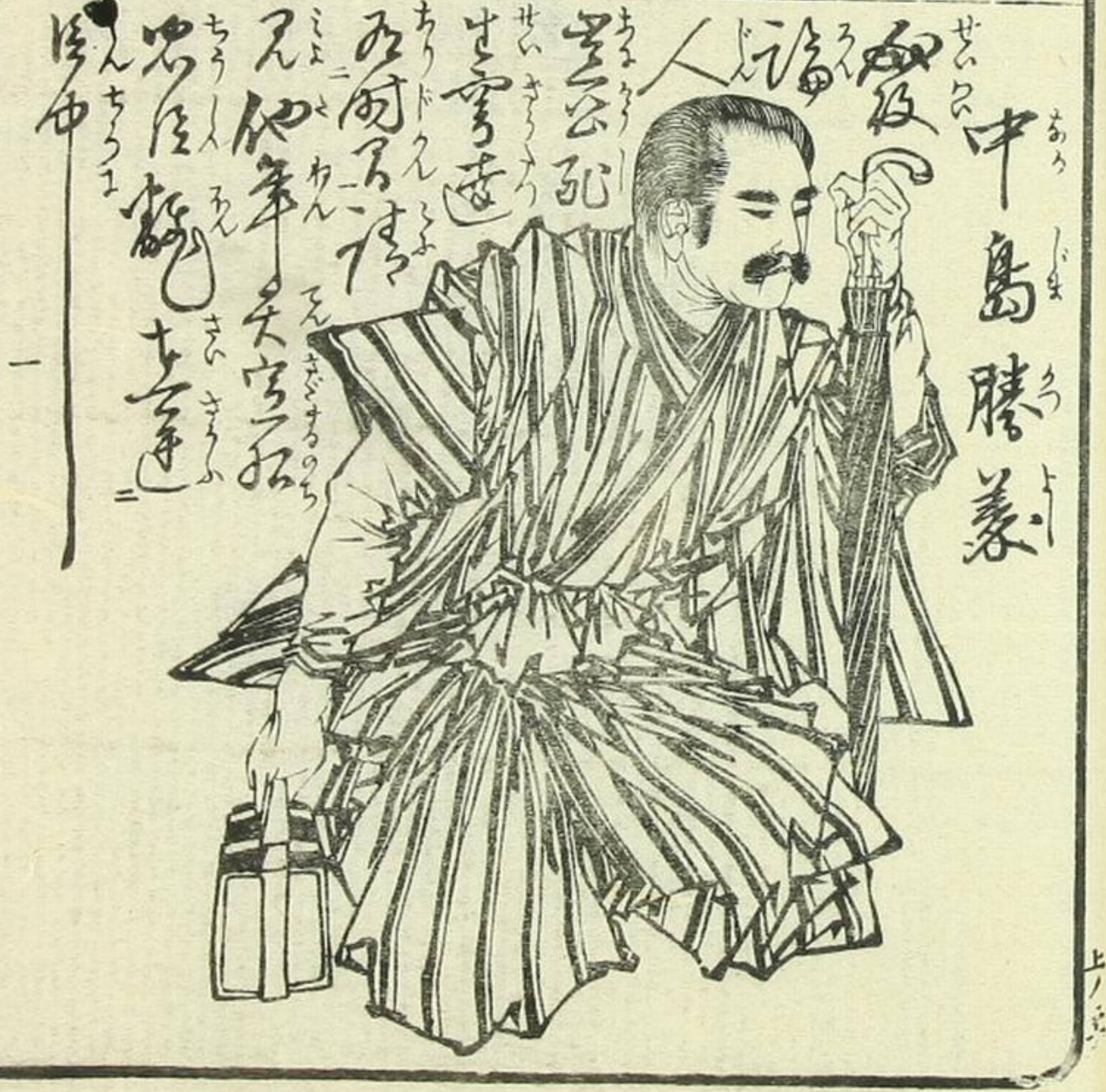


山陽魏ハ朝日新聞の主幹たり幼名  
 と外吉と称し備前の岡山の医師の  
 末男ありしが父の業を學ぶが如く  
 常ニ漢學を主張し夜々進修せしむ  
 晝夜螢雪の勞苦を厭はず博く古今  
 の歴史小治り普く天下の治乱興敗  
 の事蹟と通曉して能く人情と含糊  
 黙識せし人あら故舊重祿々生涯と  
 安んじざる欲せざる遂ニ東京に遊び兵  
 論新聞の記者となりて激論忌憚す  
 る所あるまじきや該條例は抵觸のあ  
 とある小つき身ハ一年の禁獄を處  
 せしるも滿期の後大阪に遊びしある  
 大坂日報の事は閑して大ひみん力  
 せし事をとほろしが去て士民に授  
 産の事を周旋せりと聞く



山陽魏  
 碎香齋  
 朱あは  
 文雅  
 老の  
 減多傷情  
 杜松  
 月夜百里如  
 月色當空  
 三五夜

中島勝義と舊幕府徳川氏の臣某の  
 男あり北海道に狩てふ所にて産出  
 せし人あり稟賦穎敏多才にして幼  
 より神童奇男子の名声あり能く和  
 漢の書を讀み詩文も長じ又議論も  
 巧みあり一朝東京に來遊して評論  
 新聞の記者となり該論議條例を觸  
 ると以て禁獄を處せられたる後  
 東京曙新聞の編輯長となり能く士  
 民をして自主持権の理由を説明し  
 時ありては演説會を設けて持論を  
 主張せしむるも頗る文壇社會  
 英名を揚げたりしも常ニ貴重なる  
 國典を犯せしむるのみみて後又六  
 ヶ月の禁獄を處せられたるよしと世  
 人能く風聞せり



中島勝義  
 人語  
 芝公死  
 生書遊  
 西向不語  
 兄他年  
 忠臣蔵  
 中島

神原精二も舊徳川氏執政の項江戸  
 芝増上寺の門派の僧侶にして頗る  
 佛道を修して法門中有名の人あり  
 亞米利加使節來津の時より大ひに  
 思想と振興の一点に注ぎ而來漢書  
 を學び又兵と講じて尊王攘夷の士  
 と友とし常々慷慨悲憤して止まら  
 ず折しも王政復古維新の春とま  
 らしむる勤王の大義と主張して  
 又佛門を還り再び佛道の法門を説  
 明し遠く教導職を拜命して往々僧  
 侶の眠りを醒し又學校を設立して  
 博士士民を教示し或る時を母々の  
 寺院に於て演説講義を以て勤王護  
 法の兩義を明瞭解説せし有名の高  
 僧なりと聞たり



又事あるもの必す武備ありと唐  
 土の古書中に出し如く學問は長じ  
 文才ありけし人の通常武邊の備へ  
 いあるものあり爰も松山一郎あ  
 人を効より漢學を思ひ守せり博く  
 經史百家の書を通し又兵書をあり  
 長じ勤王の大義を唱へ舊里と脱  
 して王室の事を奔走し遂に復古の  
 御世なる迄尽力苦心十挫百折の  
 勞を盡し後天下泰平の世とあり開  
 化文明を及びし頃を再び志せり  
 勵まし士民を工商を説示し或る農  
 事開墾の大業を勸奨鼓動せり一大  
 俊傑あり後遊世の身とまきり世  
 小傳へ聞たり氏へ越後國糸魚川の  
 産ありと云ふ





齊土の民と憤發して義を越すの思  
 想あり肥饒の民を悲情を流ると古  
 人も恥ぢ陳言せしや豈み然らざる  
 ん方今文明の世とあまは上の華  
 族下卑賤の輩に至るまで舉つて義  
 義を走らざらばものあかりなり  
 月種樹を東京の華族にして門閥も  
 いと貴き人なりしが幼より学ぶ志  
 ざし博く古今の事情を曉り且つ詩  
 文も長ぜり一大俊傑なり或日華族  
 へ演説して富國強兵の事理と論辨  
 し共同一致して天下の士民を樂土  
 小居き早くも文明の地位に進ま  
 めんむと謀り昼夜怠らなく勸奨  
 の道も勉強せりと實に華族にして  
 斯の如き才賞餘りあらん



秋月種樹

咳唾  
 為玉  
 為章  
 此人數

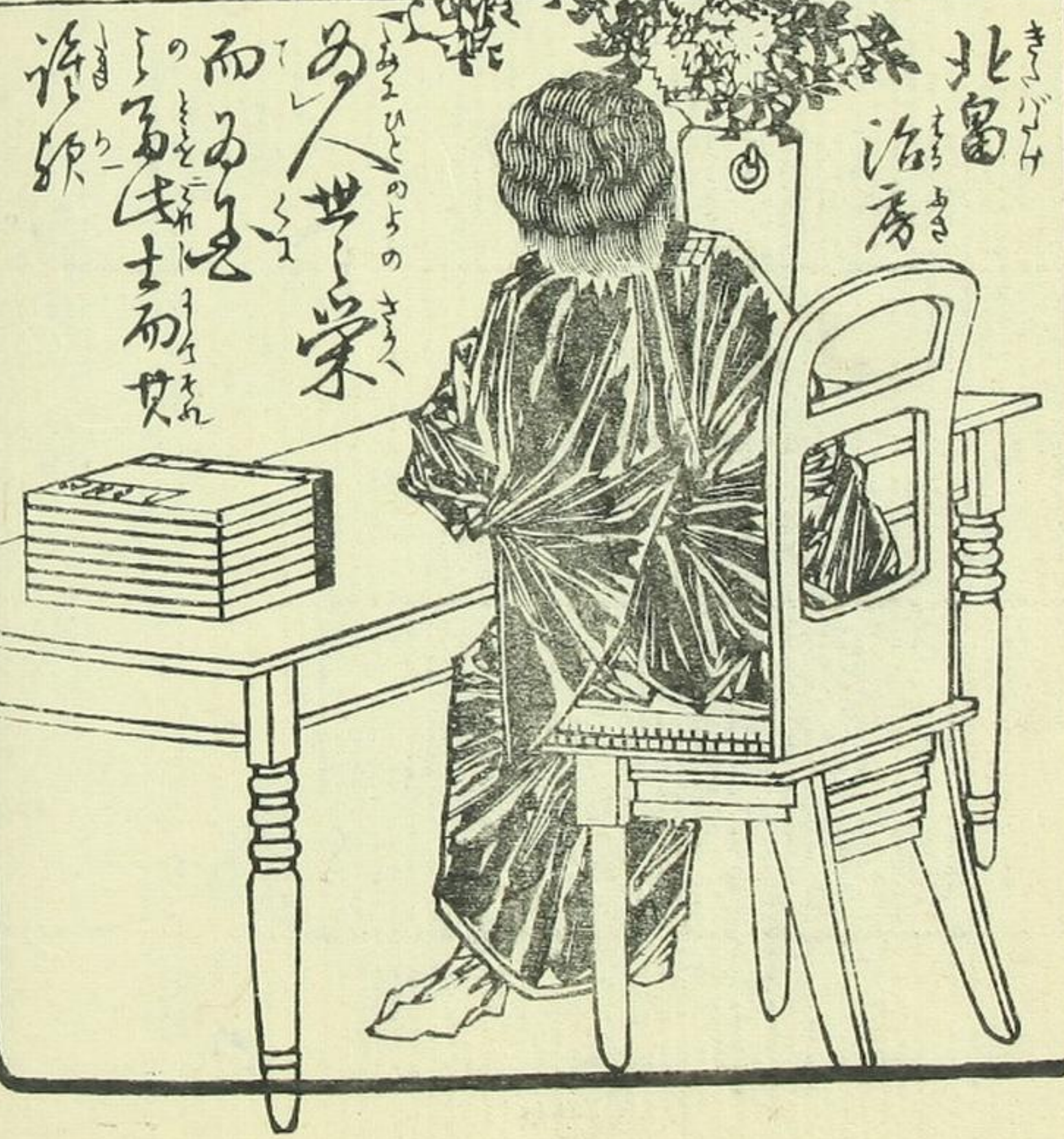
古昔武田信玄の臣山本勘助を獨眼  
 小一能く軍事の參謀とあり毎戦  
 利を得ざりしとなかりしを實に  
 天賦の人才と謂ふ可し今又此山本  
 覺馬あり人も舊奥州會津の城主松  
 平肥後守の臣にして两眼共失明  
 せし瞭人あまも藩侯に從ひ京都  
 小守護職たりし時軍謀密策を廻ら  
 し常々君侯を輔佐し時王政維新  
 の春不際し暫く捕われ幽閉せしも  
 松山一郎藤田賢之助兩人の周旋  
 して特典の官許容を得て後西京に在  
 りて士民に文明の理を説き商工の  
 事業を勸奨して専ら開化の道を開  
 き勉めて頑固なる商事を説破せし  
 通商富國の益と主張せし人あり



山本覺馬

田  
 能  
 爲  
 爲  
 爲

進んでハ布衣の極と為し退ひてハ  
 陶米倚頼の富と為すと支那人の言  
 り吾朝は別小頼敏ある俊才の人  
 ハ進んで速かハ勅任の位置と占め  
 退ひて倚頼の富と頼るハ倍々思煩  
 と士民の為めお寄せし北畠治房  
 あり氏ハ大和の國中宮司宮の臣  
 して幼より和漢の學ヲ通曉し又和  
 歌と好めり往時勤王の大義と唱へ  
 家を脱して王家の事ヲ勤勞し能く  
 有志の士と煽動して勤王復古の大  
 道と説明し遂ニ維新文明の世と  
 らん志ざせし人なり故あり退職し  
 て又天下の士民と文明の域ヲ進  
 事と頼るハ苦心尽力せしと聞  
 り



平野富二ハ長崎の海人ナリて世々  
 奮幕府ハ仕ヘ父ハ矢澤重三郎と云  
 氏ハ其二男ナリて故ありて平野氏  
 と冒せり幼より穎悟大志あり徳川  
 氏の大政奉還せしより大ハひマ野  
 と轉じて自由の身とあり東京へ遊  
 び河見のある在つて活版印刷の業  
 と擴め博く士民ハ自活の方向を得  
 せしめん事ヲ注意し且つ世人を早  
 く開化して文明の地ニ拙ましめん  
 と志ざし又商業と擴め殊ハ航海  
 造船の事業を興へて東京石川  
 島に於て造船所を創設し數百の人  
 士と使役するに至るハ實ニ賞ハ可  
 き俊才の士ありと云ん歟



海詩百首

上七十三

川壽正藏ハ薩摩の国鹿耳島の産  
 父と利右工門と称し氏を其長子  
 多し少字嚴吉と云へり長子利右  
 工門の名を冒續せり少より俊才卓  
 識智諸人ふ秀び世々商と以て生計  
 營みし家ありけまじり氏を舊重  
 不機息まると厭ふて初め長崎港を  
 遊び商法の事と通曉し尚不大志所  
 見の有る存つて大坂に至り遂に西  
 洋形船と購求して大商の道を開き  
 頗る利と占得せり帝云ふ世人の  
 商風いと弊習ありと又往時王政維  
 新の前より勤王の大義と主張せり  
 京都甲子の變動も教度の獄争  
 と為せり一大家傑あり嗚呼此人將  
 米の事業も待て見る可きあり



佐藤舜海ハ其号なり幼より偉  
 卓識の奇見あり稍長じて江戸へ遊  
 び寺門静軒の門子入り道馬意たる  
 所る多く夜を以て日みつき博く經  
 史に通じ教年の后又蘭學と學び医  
 術と研究せし小遂に出藍の譽れと  
 得たり其師佐藤兼然氏該舜海子と  
 山口氏小請ふて養子とすし佐藤姓  
 と繼がしむ氏を倍々強ひて勉めこ  
 り華成學塾にて后朝廷の召不應じ  
 て文部大臣小任せらるる大學大博士  
 と兼ね又東校の長とあり進んで大  
 典醫の官に昇り本朝若夜の上り  
 不巨大ふる私立病院と創設して順  
 天堂とふせし皆此氏の所為あり



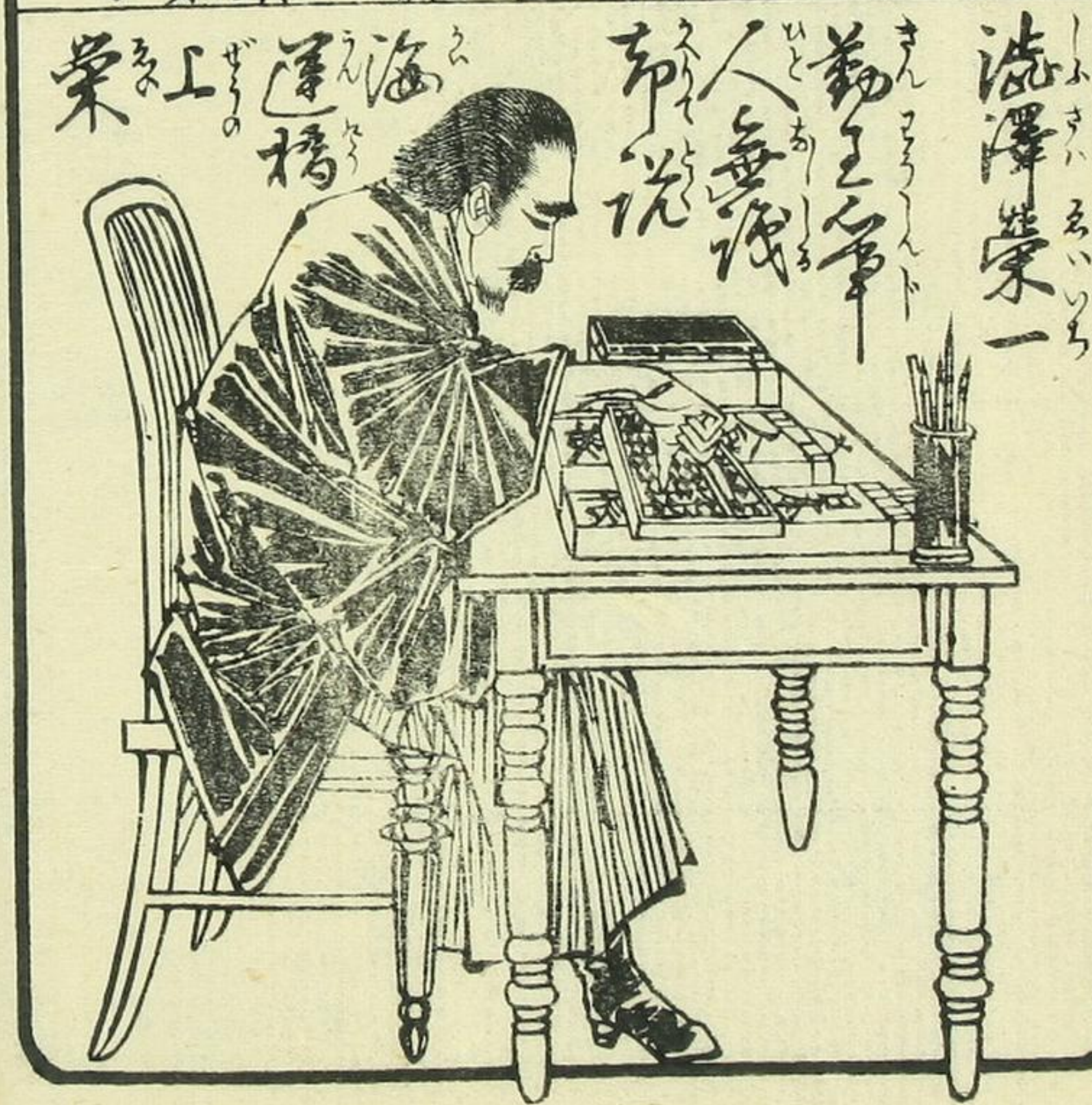
嘗て歐洲に産出せる巴律西塔那徳  
ハ陶治の業に精神を傾けりて遂に  
妙工ふる陶器と發明製造して其國  
を富はし至りしハ則ち是れ巴氏精  
神の至る所あるらん歟今や吾國産  
品の西京に棲遷せし尼僧ハ蓮  
月と稱せし尼を佛理を修し皇學  
長し頗る和歌を能く風流閑足の  
樂しみと極めし後又思想陶治の技  
小轉じて未だ幾月と経びて忽ち  
其妙工を極め急須茶碗の器と製出  
して加ふる自詠の和歌を填字し  
て稍風雅幽致と極めし世人皆之  
を賞翫して珍奇の器とすし其声  
價世に溢れし尼ありと聞く



林正明九州肥後の國熊本縣の士  
族あり天稟の資能く學と好み敏穎  
多才卓見あり一人ハ曾つて歐洲  
を漫遊して到る所往々其風土を見  
て人情を察視し普く事情の厚薄を  
探り博く政風の如何と見ざる所  
あり又歐洲法律の學を修し議論明  
辨の士とあり帰朝の後大藏省租稅  
權助に任ぜし能く其職を治め  
持命採擇と蒙りて無人島あり小笠  
原島と點點し其島に至りしと共  
ありしが故なりて辭職し後士民に  
説諭し自主自由の理如何民權なる  
もの如何と往々人々を以て其理由と  
通曉せしむるに至ると皇憲黨の  
人能く賞翫せりと聞く



洗澤榮一は上野の国三田郡の下は  
 て洗澤村と云ふ町一小村の豪商家  
 の産子にして幼より商を為せし  
 時未だ開けざらばあるが商法自徒  
 つて固陋ありしは氏を早く此感あ  
 り賤商の汚名を好まざりける折し  
 も諸藩攘夷の説起りしは氏も懐  
 慨非難不堪ざりしより家を脱して  
 京都に至り慶喜公の命により民部  
 卿に隨從して歐洲へ學遊せり彼國  
 財政の要本會得して帰朝の後大藏  
 省三等出仕に補せらるる天下理財の  
 権を握るに至るも退職の後第一國  
 立銀行の頭取とあり蓄財貯金の實  
 際を敏く大ひし其功を奏せし人  
 りと世人賞讃せざらざる者ありと云



010190530120

